

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成27年10月 6日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&I_gyosyoCd=2192500029-002P.efCd=21&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間造りを目指します」を理念とし利用者、家族、友人、地域、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中でお互いできる事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるよう支援に努めています。年に一度のバス旅行や家族との食事会、季節を感じ取れる行事や外出に努め、社会生活が継続できるように職員と利用者、家族共に希望に添えるように努め、夢や感動の実現につながる努力をしています。職員のスキルアップの為、日々研修参加や資格取得を目指しています。併設している特養や小規模多機能の利用者や職員とも連携交流しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能・特別養護老人施設が隣接され連携体制がある。従来からのかかりつけ医や協力医との関係を築いて医療面でも安心できる。契約時に重度化や終末期の方針を明確にし、家族と話し合いながら支援している。職員は、一人ひとりが今何をしたいかを把握し、小さなことでも実現できるよう努力している。利用者とともにゴミ出しや近隣商店へ買い物に出かけたり、喫茶店・図書館を利用したりして地域の人と交わる機会を作っている。事業所の祭りには地域の人やボランティアの人が参加したり、小学生の訪問があったり、地域の文化祭に利用者の作品を出品したりして交流している地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を掲げ自分たちの目標とすべき姿を共有している 目の届くところに掲示し、話し合いの場でも話題にし利用者の声に耳を傾け、要望に沿える様になっている	全職員で理念を話し合った。会議では、わかりやすい言葉で理念や目標を話し合っている。管理者や職員は、利用者の希望を把握し、小さなことでも実現できるように支援することが理念の実践と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り避難訓練や公民館清掃などに参加している ボランティアの受け入れやりんどう祭り、憩いの広場を開催 神戸北小との交流や町内への買い物や図書館、近所の喫茶店などへ出かけている	利用者は、ゴミ出しや買い物の際や喫茶店・図書館の利用時などに地域の人と挨拶を交わし顔馴染みとなっている。事業所の祭りやお茶会に地域の人やボランティアが参加したり、小学生が訪問したり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のグループホームと共同で家族向けの講座を開催したり、町の認知症カフェに参加し理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や、利用者様や家族様、地域の方の意見を聞き話し合いを行いサービス向上につなげていけるよう努めている	事業所の状況や行事・事故・外部評価の報告をし、感想や質問が出されている。災害対策として地域消防団との交流が提案され、施設見学をもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課や地域包括へも相談し、意見を頂いている	事業所の行事の際の開催場所についてや制度上の事で相談をしている。市町村から独居の方の受け入れや認知症カフェの相談担当依頼、参加の誘いを受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を原則とし、定期的話し合いを行っている 声掛けによる拘束にならない様に注意している	研修に参加し、内容を職員に伝達している。報道などで気になる事例について検討している。職員の言葉かけにも注意をしている。拘束委員会を設置し、身体拘束をしないケアの徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同勉強会で人権について学んだり、職員会議時にも注意を払っている 又入浴時にはボディチェックをし早期発見に努めている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修に参加し終了後伝達講習予定 成年後見制度活用に繋げる支援体制は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、利用後も不安や疑問など尋ねる事ができるような環境がある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい意見や指導を頂いている。御意見箱の設置や家族面談の中でも聞いている	家族の訪問の際、利用者の状況を伝え「何か困りごとや気づいたことはないですか？」と話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築いている。要望に対して結果を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会議の場で意見や提案を議題にあげくみ取る様にしている。年2回の自己評価時個別面談を行い、意見を聴き対応している	代表者や管理者・リーダーは、会議や個別面談時だけでなく、日頃から声を掛け、意見や提案を聞いている。トイレの暖房器具・脚立・お菓子作りの道具の購入などの意見が出され実現に結びついた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映している。内外の研修へは出来るだけ参加し、スタッフの向上心に繋がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成研修に重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には支援制度もあり経済面での不安軽減に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと協働で、家族向けの講座を開催した。認知症カフェでは近隣のグループホームと情報交換や交流している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時に、聞く姿勢を大切に、本人と話をしながら不安や要望を理解し安心していただける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族面談により情報を聴き、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話をはじめ、食事の盛り付け・片付け・皿洗い・洗濯・たみ・掃除・居室内の片付けシーツ交換など個々に合った暮らしの手伝いをしてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂ける様にしている。ケース記録を観覧して頂ける家族様もおられる。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ行き、買い物をしている。顔見知りの方にお会いする事もある。知人や兄弟の方などの面会もある	外出の際、若い頃の様子を話題にしたり、日常の会話や家族から馴染みの人や場所を聞き取り把握している。馴染みの人と会いたいと希望があれば、家族の協力を得て面会に来てもらい、再度の来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている 他の家族と一緒に喫茶店へ出かける方もあった		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の家族様より落ち着いたらボランティアに来たいと言われており関係が継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活に必要な時は、家族様への働きかけも行っている。笑顔になれるポイントを身に付ける様に努めている	家族からの情報や会話の中から、希望や意向を把握している。笑顔になれる話題などの情報を職員間で共有し、困難な人には、声掛けの方法を変えたり、表情を見たりして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には馴染みの物を持参して頂いている。アセスメントや昔の話を聞き、これまでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる方には望む生活より少し活動的にして頂ける様に支援している。伝えることが困難な方には、一緒に作業する事から始め、今出来る事を維持できる様に支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で意見交換し介護計画につなげている。利用者本人の気持ちを聞き個別支援に努めている	介護記録、利用者・家族・医師・職員の意見を基に2つのユニット合同のグループ会で話し合いながら介護計画を作成している。一人ひとりの希望を取り入れ、状態の変化に合わせて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、情報共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能・特養とも連携し利用者や職員が行き来できるよう支援している。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問、小・中・高・大学生の訪問、認知症カフェへの参加、家族から花の差し入れやレク用品等の協力を得て支援している。家族の協力のもと、バス旅行にも行く事ができた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診やかかりつけ医をうまく組み合わせ支援している。かかりつけ医受診時には、情報提供し指示を仰いでいる	かかりつけ医の受診は家族同行が基本であるが、看護師や職員が代わって同行するなど柔軟な対応をしている。受診前後は書類や口頭で情報交換し、医師との関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時、急変時、怪我等いつもと様子が違う時には看護師へ報告している。看護師より担当医、家族に報告し適切に治療に繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から経過を聞き、情報交換を行い早期に退院できる様に良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどのように迎えたいかを家族様と本人の意向を伺い、看取りの説明も行い、希望に沿った対応をしている。	契約時に事業所の方針を説明し、終末期の看取りについての確認書を交わしている。状態変化に応じて家族に説明し、医師と相談しながら対応している。職員には管理者や看護師から説明し、方針を共有し、看取りまで支援した実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐ事が出来、必要時には看護師が対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員が避難経路を把握し、スムーズに避難できる様にしている。地域の消防団の方の施設見学を行う事が出来た	同一敷地内の施設と共同で、利用者も参加して夜間想定を含めて年2回行っている。災害時の備蓄もある。しかしグループ内のみの協力体制で、地域住民の参加はない。	災害時には地域の人々の協力が不可欠であり、住民へ働きかけ、参加、協力が得られるよう希望する。

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方についてグループ会で話し合い、個々の尊厳を大切に言葉かけや対応に気をつけている。居室内で個々に話を聞くことも大切にしている	入室時は、必ず声をかけ、利用者の話を聞く際は、周囲に聞こえないよう居室内で聞いている。また、ちゃん付けで呼ばない、肌着などを人目にふれないようにするなど互いに注意し合い、自尊心や羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着たい服を選んでもらっている。会話で表現の難しい方にはしばらく様子見し、見極めてから思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うよう柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。体調に合わせて休んで頂くときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着ていた服を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着ていただいている。季節ごとの入れ替えは家族に協力してもらっている。月2回の理美容で毛染めやパーマ等にも対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食をとり入れ、盛り付け等一緒に行っている。食べられないものは、出来るだけ他のもので対応している。また、出来るだけ普通食が食べられる様に支援している	おやつを一緒に作り、行事食、バイキングや外食など楽しく食べるための工夫がある。盛り付け・後片付けなどは利用者と一緒にしているが、職員は食事を共にしていない。	職員不足や休憩時間の兼ね合いもあるが、職員と利用者が同じ食卓を囲み楽しく食事ができるよう工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定や毎食の摂取量や摂取状況を把握している。状態状況を見極めて提供している。水分摂取に努め、好物を家族に持参してもらう事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯間ブラシや歯ブラシ等で口腔ケアを行っている。必要時や希望時には、歯科往診や受診に繋げている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・食事・排便・排尿等を確認し、排泄パターンを知り、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている	排泄パターンを知り、しぐさなどを見てトイレに誘っている。夜間はポータブルトイレを使用する人もいるが、できる限りトイレへ誘導している。それにより、オムツから紙パンツ、布パンツへ移行できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1200mlを目標に水分摂取をすすめ、出来るだけ普通食を食べて貰えるように支援している。散歩・体操やヨーグルト・食物繊維製品の個人購入などにより下剤に頼らない取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴可能な曜日、時間は決まっているが、湯の温度や入るタイミングは出来るだけ希望に沿う様にしている ゆず湯や音楽を聴きながらの入浴なども行っている	週2回の入浴であるが、入浴回数を多くするなど希望に応じ柔軟に対応している。入浴順や湯温、入浴剤など個々の希望に沿って、楽しみ、ゆったりと入ることができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望時、体調に応じて休んでもらっている。週に1回と汚染時にはシーツ交換、年2回布団の入れ替えを行っている。使い慣れた枕や毛布等も持参し使用されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで薬に関する説明書等がいつでも確認できるようになっている。看護師が管理、指導を行い症状変化時は報告している。オブラートや粉碎対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや盛り付け、米研ぎ等出来る事を一緒に行ってもらっている。おやつや買い物も一緒に出かけている。散歩や喫茶店へも出かけて気分転換してもらっている。家族と一緒にバス旅行にも出かけた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩に出かける様にしている。本人の希望を家族に伝え、外出や外泊に繋げている。近所の喫茶店へも出かけている。職員とゴミ捨てにも出かけ本人の役割をもって頂いている。一人で小規模多機能へ遊びに行かれる方もいる	散歩やゴミ出し、図書館の利用や買い物など日常的に外出している。急な外出の希望は、できる限り希望に沿っている。希望によりバス旅行をしたり、外泊や遠出のときは家族の協力を依頼したりするなど、出かけられるよう支援している。	

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際、お金を払ってもらう事もある。基本は個人のお金は事務所で預かり、希望の物があれば購入している。小銭をご自分で管理されているかもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは行っている。用件があるときには、職員に伝えられる事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。季節感を感じられる様な飾り付けも行っている。	職員は、感染症の対策を立てて、換気や温度管理に気を配っている。窓辺に干し柿をつるしたり洗濯物が干してある。居間には利用者が作成した貼り絵や習字などが飾られていて、季節感や生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し何処にでも座れる様に気を配っている。ソファで利用者同士で編み物をされていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を自宅から継続して使ってもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている。家族との写真も飾って心地よく過ごさせておられる	自作の手芸品・大切にしてきた人形・使い慣れた衣装箱が置かれ、家族写真・孫からのメッセージカード・好みのカレンダーが壁に貼ってある。ベッドや整理ダンスは相談しながら配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや盛り付け等出来る事は一緒に行って頂いているため、動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に気をつけている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成27年10月 6日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192500029-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念とし利用者、家族、友人、地域、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中でお互いできる事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるよう支援に努めています。年に一度のバス旅行や家族との食事会、季節を感じ取れる行事や外出に努め、社会生活が継続できるように職員と利用者、家族共に希望に添えるように努め、夢や感動の実現につながる努力をしています。職員のスキルアップの為、日々研修参加や資格取得を目指しています。併設している特養や小規模多機能の利用者や職員とも連携交流しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を掲げ自分たちの目標とすべき姿を共有している 目の届くところに掲示し、話し合いの場でも話題にし利用者の声に耳を傾け、要望に沿える様になっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り避難訓練や公民館清掃などに参加している ボランティアの受け入れやりんどう祭り、憩いの広場を開催 神戸北小との交流や町内への買い物や図書館、近所の喫茶店などへ出かけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のグループホームと共同で家族向けの講座を開催したり、町の認知症カフェに参加し理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や、利用者様や家族様、地域の方の意見を聞き話し合いを行いサービス向上につなげていけるよう努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課や地域包括へも相談し、意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を原則とし、定期的話し合いを行っている 声掛けによる拘束にならない様に注意している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同勉強会で人権について学んだり、職員会議時にも注意を払っている 又入浴時にはボディチェックをし早期発見に努めている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修に参加し終了後伝達講習予定 成年後見制度活用に繋げる支援体制は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、利用後も不安や疑問など尋ねる事ができるような環境がある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい意見や指導を頂いている。御意見箱の設置や家族面談の中でも聞いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会議の場で意見や提案を議題にあげくみ取る様にしている。年2回の自己評価時個別面談を行い、意見を聴き対応している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映している。内外の研修へは出来るだけ参加し、スタッフの向上心に繋がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成研修に重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には支援制度もあり経済面での不安軽減に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと協働で、家族向けの講座を開催した。認知症カフェでは近隣のグループホームと情報交換や交流している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時に、聞く姿勢を大切に、本人と話をしながら不安や要望を理解し安心していただける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族面談により情報を聴き、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話をはじめ、米研ぎ・食事の盛り付け・片付け・洗濯干しや畳み・掃除・居室内の片付けなど個々に合った暮らしの手伝いをしてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂ける様にしている。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ行き、買い物をしている。顔見知りの方にお会いする事もある。知人や兄弟の方などの面会もあり笑顔で楽しい時間を過ごされておられる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている。他の家族と一緒に喫茶店へ出かける方もあった		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方には年に一度の追悼法要の案内を差し上げ、毎年参加される家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活に必要な時は、家族様への働きかけも行っている。笑顔になれるポイントを身に付ける様に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には馴染みの物を持参して頂いている。アセスメントや昔の話を聞き、これまでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる方には望む生活より少し活動的にして頂ける様に支援している。伝えることが困難な方には、一緒に作業する事から始め、今出来る事を維持できる様に支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で意見交換し介護計画につなげている。利用者本人の気持ちを大事にし個別支援に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、情報共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身元引受人が海外へ行っている間の対応を姉妹の人の協力に対応出来ている。多機能・特養とも連携し利用者や職員が行き来できるよう支援している。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問、小・中・高・大学生の訪問、認知症カフェへの参加、など協力を得て支援している。家族の協力のもと、バス旅行にも行く事ができた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診やかかりつけ医をうまく組み合わせて支援している。かかりつけ医受診時には、情報提供し指示を仰いでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時、急変時、怪我等いつもと様子が違う時には看護師へ報告している。看護師より担当医、家族に報告し適切に治療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から経過を聞き、情報交換を行い早期に退院できる様に良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどのように迎えたいかを家族様と本人の意向を伺い、看取りの説明も行い、希望に沿った対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐ事が出来、必要時には看護師が対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員が避難経路を把握し、スムーズに避難できる様にしている。地域の消防団の方の施設見学を行う事が出来た		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方についてグループ会で話し合い、個々の尊厳を大切に言葉かけや対応に気をつけている。利用者の気持ちになって支援することを基本にしコミュニケーションをとっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着たい服を選んでもらっている。会話で表現の難しい方にはしばらく様子見し、見極めてから思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うよう柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムでその時の希望を大切に過ごしてもらっている。体調に合わせて休んで頂くときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着ていた服を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着ていただいている。季節ごとの入れ替えは家族に協力してもらっている。月2回の理美容で毛染めやパーマ等にも対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、盛り付け等一緒に行っている。食べられないものは、出来るだけ他のもので対応している。また、出来るだけ普通食が食べられる様に支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定や毎食の摂取量や摂取状況を把握している。状態状況を見極めて提供している。水分摂取に努め、好物を家族に持参してもらう事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯間ブラシや歯ブラシ等で口腔ケアを行っている。必要時や希望時には、歯科往診や受診に繋げている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・食事・排便・排尿等を確認し、排泄パターンを知り、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1200mlを目標に水分摂取をすすめ、出来るだけ普通食を食べて貰えるように支援している。散歩・体操やヨーグルトの個人購入などにより下剤に頼らない取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴可能な曜日、時間は決まっているが、湯の温度や入るタイミングは出来るだけ希望に沿う様にしている ゆず湯や歌を唄いながらのなども行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望時、体調に応じて休んでもらっている。週に1回と汚染時にはシーツ交換、年2回布団の入れ替えを行っている。使い慣れた枕や毛布等も持参し使用されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで薬に関する説明書等がいつでも確認できるようになっている。看護師が管理、指導を行い症状変化時は報告している。オブラートや粉砕対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや盛り付け、米研ぎ等出来る事を一緒に行ってもらっている。おやつや買い物も一緒に出かけている。散歩や喫茶店へも出かけて気分転換してもらっている。家族と一緒にバス旅行にも出かけた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ散歩に出かける様にしている。本人の希望を家族に伝え、外出や外泊に繋げている。近所の喫茶店へも出かけている。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際、お金を払ってもらう事もある。基本は個人のお金は事務所で預かり、希望の物があれば購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは行っている。用件があるときには、職員に伝えられる事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。季節感を感じられる様な飾り付けも一緒に作成し飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し何処にでも座れる様に気を配っている。ソファではお話しされながら洗濯たみを利用者同士で行っておられることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を自宅から継続して使ってもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている。本人様が過ごしやすい物の配置を大切にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや盛り付け等出来る事は一緒に行って頂いているため、動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に気を付けている		